



鹿児島県立甲南高等学校

# 進路指導室だより

令和元年度 第5号 (9月30日発行)

## 動から静へ

令和になって最初の体育祭は、競技の部で赤組2年生、応援の部で青組3年生の優勝で幕を閉じました。生徒の皆さんが、真剣に競技に参加し、応援する姿は、



見ている人の心を動かしたと思います。また、文化祭ではステー

ジ部門、展示部門共に甲南生の多才ぶりを再認識しました。残

暑は厳しいですが、行事に熱中した慌ただしかった9月も終わります。そこで、

これからの学校生活について考えてみましょう。

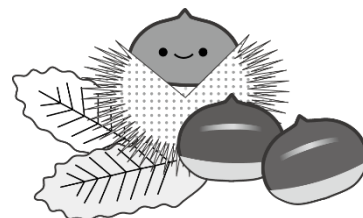


**1年生**・・・1年生がこの2学期にしなければいけないことに「文理選択」があります。文理選択は、志望校や将来の職業につながる大切な選択です。「人生の大きな岐路」といっても過言ではありません。甲南生には、教科の好き嫌いや友達の動向に左右される人はいないと思いますが、自分自身で「自分は何に興味を持っているのか。将来どんなことを仕事としてやりたいのか。」といったことを見定めて、それらを実現するためにはどんな進路に進むべきなのかをじっくりと考える必要があります。後悔しない文理選択となるように、しっかりと自分に向き合ってもらいと思います。

**2年生**・・・夏休みから9月にかけては学校行事や部活動の中心となり、多忙な毎日が続いていると思います。クラスや部活動単位で一致団結して得た経験は、これからの学校生活の支えとなり力となるはずですが、学習時間の確保が難しく、短くなっているのではないのでしょうか。合格した先輩たちは、「本格的な受験勉強を始めたのは2年生の秋から」と口々に言っています。「3年生になってから大丈夫」とか「勉強しているつもりだけど・・・」という人は早急に自分の生活を振り返りましょう。「学習の記録」を利用して、1週間の学習時間・教科バランスの確認や3点固定（起床時間・学習開始時間・就寝時間）が徹底されているかなど確認することをお勧めします。

**3年生**・・・センター試験の出願書類作成や受験料の振り込みを終え、いよいよという気持ちで勉強に励んでいることでしょう。中間考査が終わると、マーク模試・記述模試・各大学のプレテストなどが目白押しの時期になってきます。部活動を引退してからコツコツと努力を積み重ねてきたと思います。最初は手応えがなかったかもしれませんが、そろそろ何らかの形で感じるようになる人もでてくると思います。その「何か」を感じるようになると、更に受験勉強に弾みが出るでしょう。ただし、模擬試験はあくまでも通過点であり、現時点での理解度を確認する材料ではありません。試験結果に一喜一憂することなく、ただひたすらに高い壁を乗り越えるために、自分へ更なる厳しさを課し、努力を継続していくことが大切であると思います。

「実りの秋」がもうそこまできています。がんばれ甲南71期生！



## 【進路室の窓から】

進路や大学入試改革などに関することをお知らせします。

### (5) 外部英語検定に必要な共通IDの発行について

共通テストの枠組みで行われる外部英語検定の1つである英検の申込みが始まっています。2年生は特別に学年朝礼を行い、説明を行いました。この外部英語検定を大学入試で活用する場合には、共通IDを取得する必要があります。この共通IDの申込みは、学校を通じて、下記の日程で申し込むこととなっています。

2年生：令和元年 11月1日（金）～ 11月14日（木）（11月14日消印有効）

3年生：令和元年 12月2日（月）～ 12月10日（火）（12月10日消印有効）

現在、「共通ID発行申込案内」は2・3年生全員分届いていますので、2年生は10月に、3年生は11月に、その案内を使って申込書類の書き方等について説明します。また、受験料減免についてもこの案内に書かれていますので、合わせて説明します。なお、3年生は来年度3月に万が一必要になった時に備えて、予備的に取るものです（共通IDの取得には料金はかかりません）。

外部試験については大学入試センターの下記ホームページでも説明等が出ていますので、必要に応じて確認してください。

[https://www.dnc.ac.jp/eigo\\_seiseki\\_system/index.html](https://www.dnc.ac.jp/eigo_seiseki_system/index.html)

## 【読書のすすめ】 今月のこれを読め！

### 『NEWTYPE ニュータイプの時代』 山口 周 著

「ニュータイプ」と聞いて皆さんは何を連想しますか？僕ら団塊ジュニア世代は、さながら、機動戦士ガンダムの中の架空の概念のことを想起する（同名のアニメ情報誌もありますが…）のですが、今回紹介する「ニュータイプ」は、20世紀後半から21世紀前半にかけての行動様式（これを著者は「オールドタイプ」と呼ぶ）に対して用いられている、現代社会を生き抜くための24の思考・行動様式のことを指します。

著者の山口周さんは、前著『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？』で、「美意識をアート」を武器にする人材こそが求められる時代になったと述べます。そしてこの本の「はじめに」の中で、現代社会を次のような時代だと捉えています。

**私たちは、人類史の中で初めて「問題が希少で解決策が過剰」という時代に突入しつつあります。このような時代にあっては、ただ単に「問題解決の能力が高い」というだけでは価値を生み出せません。**

そして、このような時代を生き抜くために必要な思考法や働き方、生き方や学び方をこの中で紹介しています。

皆さんも、この本を読んで、思考・行動をアップデートしてみませんか？

